

氏名	末 長 敦
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 111 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和40年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学 位 論 文 題 目	関節液および関節水腫に関する研究
論 文 審 査 委 員	教授 児 玉 俊 夫 教授 田 中 早 苗 教授 砂 田 輝 武

学 位 論 文 内 容 要 旨

いわゆる関節水腫症に対して検討を加えたが、全般に予後は良好であるにもかかわらず40才以後に発病した女性で経過が5年以上におよぶものは多発性関節炎に移行し、慢性関節リウマチと関連が深いことがわかった。

慢性関節リウマチの膝関節性状およびそのリウマチ因子に対して検索し、膝関節液中の RA 試験、細胞数、蛋白量とその全身指数（児玉）との間に相関関係が認められた。

膝関節内圧を動的に観察し、正常膝関節では-10ないし+40mmHgの間の変動がえられた。膝関節水腫を有する膝関節では-10ないし+250mmHgにもおよび、その内圧の高いことと膝関節囊および内外広筋の萎縮との間に悪循環が考えられる。

局所治療効果を新しい児玉の評価法により評価したが、慢性関節リウマチでの局所治療効果は一時的であり、永続性を有しないことが明らかにされた。

備 考：岡山医学会雑誌 第76巻11, 12号（昭和39年12月31日付発行）に掲載予定

論文審査の結果の要旨

1. 関節水腫を主たる症状とする関節水腫症は大多数は1年以内に治癒している。末長は岡大整形外科内リウマチクリニックで1年以上しても経過の良くない患者を検査し、臨床的ならびに病理組織学的に本症が関節リウマチと関係深いことを認めた。
2. 関節液の研究では RA-test は関節液のそれと血清のそれとが非常に強い相関を示す、関節リウマチと骨関節炎とを比較すると両者の間で関節液の蛋白量と、細胞数とで最も差がある。
3. 膝関節の内圧曲線は -10mmHg から $+40\text{mmHg}$ の間を膝関節の運動につれて変動している。特に最終伸展に際して内・外広筋の緊張により内圧は急に高まる。水腫があるところの内圧の変動は少くなるこのことは関節液の代謝に不利である。
4. 進行した慢性関節リウマチの膝関節にステロイドの注入が広く行われているが単に一時的に症状を鎮静させるに過ぎないことを示した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。